



静寂に包まれたコースで
繰り広げられた白熱の戦い

第53回日本女子オープン ゴルフ選手権

世界的時流を受け止め進化。 32年ぶりの九州ステージ

1968(昭和43)年にTBS(東京放送)主催で日本ゴルフ協会の後援による「TBS女子オープン」TBS越ヶ谷ゴルフコース」として旗揚げされ、1971(昭和46)年の第4回大会からは日本ゴルフ協会主催となり現在の「日本女子オープンゴルフ選手権競技」へと大会名を変え紡いできた国内で最も古い歴史を持つ格式と伝統を誇るナショナルオープンが、九州地区では1988年(第21回)大会の太宰府ゴルフ倶楽部以来32年ぶりに、ザ・クラシックゴルフ倶楽部を舞台に行われた。

日本を代表するトーナメントコースを数多く手がけた鈴木正一氏がデザインした独特の曲線美を持つコースは1990年に開場し30年。1995年「日本女子プロゴルフ選手権(優勝「高村重紀」)、2017年「日本シニアオープンゴルフ選手権(優勝「プラヤド・マークセン」)に次ぐ3つ目のメジャーを迎え入れるにあたり、世界的な時流を意識したトーナメントコースに向けベンジャミン・ウォーレン氏(スコットランド出身)とタッグを組み改造に着手。リオ五輪の開催コース「レセルバ・デ・マラペンデイ」の建設に携わり、近年はモロッコ王室からの依頼に応じてロバート・トレント・ジョーンズ設計のコース改修プロジェクトに参画するなどゴルフ場開発に従事してきた氏

とともに進化するザ・クラシックゴルフ倶楽部で、新たな名勝負が歴史に刻まれた。

国内最高峰女子メジャーの「2020年度(第53回)日本女子オープンゴルフ選手権(賞金総額1億1250万円・優勝賞金2250万円)」は10月1日(休)から4日間、ザ・クラシックゴルフ倶楽部キング・クイーンコース(6716ヤード・パー72)でアマチュア16人を含む120人が出場して開催され、3日目にトップに立った原英莉花(日本通運・21歳)が最終日を5バーディー・1ボギーで4つスコアを伸ばして逃げ切り、通算16アンダーで大会初優勝を飾った。4打差の2位は小祝さくら(ニトリ・22歳)、さらに4打差で上田桃子(かんぽ生命・34歳)と仲宗根澄香(Sky・28歳)が3位タイ。埼玉栄高3年の岩井明愛が通算3アンダーの14位タイに食い込みローアマチュアに輝いた。

同世代3人目の公式戦V

「凄くしびれて、集中力マックスにしないと体がぶるっちゃう感じでした。自分の気持ちいいプレーは攻めるプレーだと改めて実感した4日間になったと思います」と、国内最高峰メジャーの大一番で最多23個のバーディーを重ねて猛進した原は、後半に7バーディーを奪って巻き返した第1ラウンドで3位につけると2つスコアを伸ばした第2ラウンドで2位に浮上。「(小祝)さくらちゃんも凄いシ

大会史上「最長」セッティング

KING/3,331Yard Par36 QUEEN/3,430 Par36 6,761Yard Par72

「独特の曲線美と水の演出」と称された ザ・クラシックゴルフ倶楽部 キング&クイーンコース

53th JAPAN WOMEN'S OPEN GOLF CHAMPIONSHIP



ヨットが上手なので、ピンに絡めてパーディを獲得するというスタイルを見て、私も果敢にピンを狙っていきました」と決勝2ラウンドともに最終組で火花を散らした小祝に刺激を受けながら、7バーディ・1ボギーで回った第3ラウンドで単独トップに躍り出て迎えた最終日も攻めのゴルフを貫き前進。スタート時の4打差をキープして折り返した最終バックナインで自ら最大のターニングポイントと捉えた12番(パー5)では一騎打ちの様相となった小祝が11番から連続バーディを決めて追いつくが、中、「負けたくないって思ってた集中しましたね。一番、しびれたかもしれないです」という3歳のバーディトライを入れ返して流れを断ち切ると、第1打が左手前にシヨットした続く13番(パー3)ではピンまで10呎の距離を58度のウェッジで振じ込み3連続バーディ。勝負所を逃さず通算16アンダーまでスコアを伸ばして大勢は決した。

高校2年時に初参戦して連続出場6回目、中学時代から憧れを抱き続けた舞台で頂点に上り詰めた原は98-99年生まれの黄金世代では畑岡奈紗、渋野日向子に続く3人目のナショナルオープンクイーンに輝いた。

**最長コースがもたらした
原点回帰の攻撃的思考
とパッティング**

大会史上最長となる6761呎のロングセッティングが本来の攻撃的ゴルフを呼び起こした今大会。コース攻略への糸口に3Wを投入し「今回のクラブセッティングはかなり良かったと思います。3Wを入れたことによってパー5でバーディを獲れるっていう自信になりました」と、最終日も3バーディを奪うなど4日間で10アンダーを稼いだロングホールで思惑通りにスコアを伸ばし、さらに、19年シーズンはランキング42位に終わった課題のパッティングも前週のオープンウィークに好転する切っ掛けを掴んで乗り込んだ原は、最後まで争ったパット巧者の小祝も称賛するグリーン上で氣勢をそぐ好パットを連発し、今大会ただ一人4日間ともアンダーパーをマークし快走。ビジョンが広がる展望の複数年シードを手に入れ「大っきいですね。やっぱり海外で戦いたいという思いもあるので、世界ランクを上げてQT(予選会)に挑戦して、向こうで戦うってことも考えながら、ちょっと悩みたいと思います。悩む材料ができたって凄く幸せですね」と、世界へ飛び出す現実味が増した福岡の地で想像を掻き立てた。

この勝利で弾みをつけた原は2020年の最終戦「リコーカップ」で初日から首位を死守する完全優勝を果たし、年間メジャー12勝は15人目、日本人選手では10人目の快挙を達成した。



Haruka AMAMOTO
 所属 フリー
 生年月日 1998/7/23
 出身地 福岡県

Miyu GOTO
 所属 やまやコミュニケーションズ
 生年月日 2000/9/29
 出身地 福岡県北九州市

Syuri SAKUMA
 First day and the 17th hole, HOLE in ONE
 所属 埼玉平成高3年
 生年月日 1986/6/15
 出身地 埼玉県

Mr. Tsunefada TAKEDA and **Mr. Toshiyuki TANIMIZU**

Low Amateur Akie Iwai
 所属 埼玉栄高3年
 生年月日 2002/7/5
 出身地 埼玉県

Mone INAMI
 所属 都築電気
 生年月日 1999/7/29
 出身地 東京都豊島区